

創業6年目、建設100校を達成

AEFAの学校建設は創業6年目で100校となりました。日本財団はじめ、篤志家の方々、企業・団体のみなさまにいただいたご厚志のおかげです。ありがとうございました。

また、AEFAの特徴である交流事業においては、国内71校がフレンドシップ校として参加、活発な交流を通して、日本の子どもたちが「学べるのが当たり前ではない」ことの貴重な気づきを得ています。《真の受益者は子どもたち》を目指して更に頑張ります。一層のご理解とご支援をお願いいたします。

100校目は再び子どもたちの“頑張り”資金で

2006年7月に第1校をタイ・チェンマイ県メーチェム郡ソップワック村に建設して以来、創業6年で建設校は100校を達成しました。

記念すべき100校目は、再び、日本の子どもたちの“頑張り資金”によるワンコイン・スクールの第2校目として、ラオス・チャンヌア村に建設予定。

チャンヌア村は人口752人（少数民族カタン族）、識字率は低く、村人の手作りによる現校舎は傾き、生徒128人に対し机・イスが不足。井戸は壊れており、トイレはありません。3教室、教員室、WC、井戸付きの新校舎は来年9月に開校します。

《国別建設校》

	ベトナム	ラオス	タイ	中国雲南	合計
2005年	4	2	2	—	8
2006年	8	3	2	2	15
2007年	9	6	—	—	15
2008年	13	4	1	—	18
2009年	17	3	1	—	21
2010年	17	6	1	—	24
合計	68	24	7	2	101



現校舎



人懐っこい村の子どもたち

初の自治体の交流参加、福島県飯舘村

福島県相馬郡飯舘村がラオス南部ドンニャイ中学校建設および交流事業を推進します。

広瀬要人教育長他が現地を視察、恵まれない環境の

中で、子どもたちの瞳の輝きに圧倒されたとのこと。AEFAは同村の交流事業をく心のリレー役>としてお手伝いします。



菅野則雄村長（左）と谷川理事長

交流校の先生方、タイ現地視察&交流授業

夏休みを利用して、交流校の先生方によるタイ山岳地帯の学校（サムソップ小・ファイコン小）視察と交流授業が行われ、その報告が10月30日開催のAEFAフォーラムで発表されました。（6頁ご参照）

「ティーチャーズファンド」創設

ラオスでは、学校があっても先生が不足しているのが実情です。学校を真の学びの場とするため、ボランティア先生を追加雇用する給与、毎年の研修会、先生用の図書や教材を継続的に支援します。

今年初めて中学校を3校建設

村人総出で旧校舎を移設
ドンニャイ中学校／ラオス



3月に初めて中学校（パチュドン中）を開校。続いて9月にグエンズイーフ中が竣工、現在はドンニャイ中を建設中。

AEFAの3階建理念



ひとつこと

第二の創業に向けて一第三の扉に挑戦

事業開始して6年が経過。建設事業は、100校建設という節目を迎えました。交流事業も発展進化して、交流校も通算71校になり、出前授業も通算115回を数えました。しかし交流事業は未だ発展途上であり、やるべき課題が多くあります。参加型で能動的継続的な活動にするためにはどうすればよいのでしょうか。

次の挑戦は第三の扉を開くことです。①第一は学校の門扉という扉でした。事業を始めて1～2年は

学校に受け入れて貰えませんでした。②第二は教室の扉。教室という「聖域」に入り、出前授業で子どもたちに直接語りかけることが出来るようになりました。③第三は保護者の心という扉です。保護者にも交流の成果を実感して頂きたい。その扉は何処にあるのか。どのようにすれば開くのか未だ分かりません。ワンコイン・頑張りカード運動を通じて少し開き始め、嬉しい思いをしています。本番はこれからです。（理事長 谷川 洋）

2010年度 24校を建設支援！



ベトナム

グエンズイーフー中学校 (日本財団)

クアンナム省ヌイタン郡。中学校で高等教育を受けられるようになると、良い就職先へ就職できる期待が高まります。

日本財団として初の中学校建設となりました。



ベトナム

ホアバック小学校ジアンビ分校 (㈱サンキューホールディングス)

山岳の貧困地域にあり、小学生は幼稚園を借りて勉強し、5年生以上は10km離れた本校まで親戚を頼って行っていました。新校舎により全学年が一緒に学べるようになりました。



タイ

アーハ小学校 (イートアンド㈱)

校舎は老朽化が激しく、子どもたちは4km離れた村の学校へ通っています。しかし少数民族という差別を受け、苦勞している子どもも少なくありません。安心して子どもが学べる環境を整えます。



コッマイ小学校

(ろくさん基金)

近隣5ヵ村の中心基幹校を、各村から通いやすい街道沿いの新しい土地に建設。機能性の高い二重屋根に、雨季でも運動できるプレイコートを付設。地域の教育の発信源となります。



ピアラー小学校

(㈱やすらぎの部屋、大久保孝一)

これまで村に学校は無く、子ども達は越境して隣の県の学校に通っていました。村人達は、何とかして自分の村に学校を！と、お金を貯めて土地を用意。建設作業にも協力しています。



ドンチャイ中学校

(福島県相馬郡飯館村)

2007年、日本財団が6教室の小学校を建設。中学生はその旧校舎を使っていました。将来、高校も同地に新設し、より高い教育を受けさせたいと村人達は願っています。

●2010年度建設校●

	学校名	(分校名)	国名	民族	児童数	教室・設備	支援者
1	タンミー	ロット	ベトナム	モン族	37	3教室+教員室+WC+井戸	日本財団
2	バックソン	アンカイ	ベトナム	キン族	400	3教室+教員室+WC+井戸	日本財団
3	ティントオン	エナ	ベトナム	タイ族・ヌン族	160	3教室+WC+井戸	日本財団
4	ダクチャム	ダックロザー	ベトナム	セダン族	199	3教室+教員室+WC+井戸	日本財団
5	ゴックトゥ	コンプリン	ベトナム	セダン族	77	3教室+教員室+WC+井戸	日本財団
6	ゴックトゥ	ダックタン	ベトナム	セダン族	42	3教室+教員室+WC+井戸	日本財団
7	レバンタン	コンヒリン	ベトナム	セダン族	205	3教室+教員室+WC+井戸	日本財団
8	バンレム	テロン	ベトナム	セダン族	55	3教室+教員室+WC+井戸	日本財団
9	ダクサオ	ダクカクニョ	ベトナム	セダン族	58	4教室+WC+井戸	日本財団
10	ダクハ	ティトゥ	ベトナム	セダン族	59	2教室+教員室+WC+井戸	日本財団
11	ダクナー	ハラン	ベトナム	セダン族	35	3教室+WC+井戸	日本財団
12	ダクナー	ダックリエプ1	ベトナム	セダン族	91	3教室+教員室+WC+井戸	日本財団
13	ダックロオン	ダックプロ	ベトナム	セダン族	122	2教室+教員室+WC+井戸	日本財団
14	マックディンティ	アンドゥオン	ベトナム	キン族	158	5教室+教員室+WC+井戸	日本財団
15	グエンズイーフー中学校		ベトナム	コー族	208	6教室	日本財団
16	ホアバック	ジアンビ	ベトナム	カトゥー族	35	4教室+教員室+WC+井戸	㈱サンキューホールディングス
17	アッブラン		ベトナム	キン族	168	3教室+校庭+塀+WC、7教室の修繕	独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険管理機構
18	コッマイ		ラオス	イン族・低地ラオ族	252	6教室+教員室+WC+井戸	ろくさん基金
19	ピアラー		ラオス	低地ラオ族	66	3教室+教員室+WC+井戸	㈱やすらぎの部屋・大久保孝一
20	トゥムリ - フン		ラオス	カタン族	145	5教室+教員室+WC+井戸	上村基金
21	ノンヤオ中学校		ラオス	低地ラオ族	250	4教室	㈱サンキューホールディングス
22	ドンチャイ中学校		ラオス	スワイ族	252	4教室+井戸	福島県相馬郡飯館村
23	チャンヌア		ラオス	カタン族	128	3教室+教員室+WC+井戸	(ワンコイン・スクール2校目)
24	アーハ		タイ	ラフ族・アカ族	50	3教室+WC+机・椅子	イートアンド株式会社

(敬称略)

タイ／山岳地帯の熱血先生たち ～ファイコン小学校と共に

「自分は、平地の大きな町で生活していました。それがこの村に来て、物がなく、勉強の機会、仕事の機会に恵まれない人たちがいることがわかりました。この村の人たちがこれからよりよい人生の道を歩めるよう、この子たちが町に出たときも劣等感を持たないでいられるよう、一緒に努力していきたいです。」(オウム先生)

タイの北部山岳地帯で、子どもたちのために献身的に頑張る先生たち。——胸を熱くすると共に、私たち AEFA も更にながらなければと力をもらっています。

●カレン族のために●

タイ北部のファイコン小学校は標高1,000メートル級のカレン族が居住する山岳地域にあります。

村では、民族の言葉「カレン語」で生活していますが、国の共通語である「タイ語」を学ぶことは必要不可欠です。タイ語が分からなければ、職業にもつづ、偏見や差別を受けることもあります。そのために、学校ではまずタイ語を教えることから始めます。

ファイコン小学校には、近隣9ヵ村から子どもたちが通っています。

12kmも離れた村から来る子どもたちは、山道を歩いて8時間もかかるため、親元を離れて寮に入ります。近くの村の子どもは週末毎に家に帰れますが、遠い村の子どもは、雨季には鉄砲水の危険もあるため、家に帰れるのは年に5,6回。そのような僻村に学校は無く、ようやく低学年が学べる位の託児所のような教育センターがあるだけです。

親も、男の子は田畑で、女の子は子守、炊事、掃除、洗濯と家事全般に亘る重要な働き手となるため、学校へ行かないで手伝って欲しいという気持ちもあります。しかし、ファイコン小学校の熱心な先生方に教育の大切さを説得され、学校へ来る子どもたちが年々増えています。

●24時間子どもたちのために●

朝4時。まだ暗い中、先生と子どもたちは薪をくべ、朝食の準備にかかります。

2007年、AEFAがファイコン小を初めて訪れたとき、政府から支給される食事の予算は1日2食、しかも平日(月～金)分のみでした。しかし、寮の子どもたちは1日3食、週末も含めて1週間分をその予算の中で食べなくてはなりません。先生方は、少量のお米をおかゆにしてのぼし、スープをかけるなどして、少しでもおなかがいっぱいになるよう工夫していました。寮は仮小屋のような建物で通気性が悪く、限られた枚数の毛布を十分に洗濯することもできず、大変不衛生な環境でした。しかし、子どもたちにとっては、毎日3度の食事をとることができ、毛布をかけて寝られる生活は、村の生活よりずっといいものなのです。

先生方は授業の合間に交代で、5,6年生の当番の子どもと一緒に朝、昼、晩と食事を作ります。夜明けから1日が

始まりますが、夜間、具合が悪くなる子どもがいれば、バイクの後ろに乗せて山麓の診療所まで連れて行きます。責任をもって子どもたちを預かり、面倒をみるためにプライベートな時間はなく、24時間勤務です。

また、学校に通えない子どもたちに学校に来るように、あるいは村で遠隔教育を受けられるように、先生方は休日を返上してバイクで村々を廻り、教育の大切さを親に説いてきました。

学校へ行くにも、制服を買ったり教科書を揃えたり、お金がかかります。先生方は、各家庭の事情をよくわかっているため、強制はしません。またお金がなくても一人でも多くの子どもたちが教育を受けられるように、学校で本や教科書を貸し出しています。

教材も十分ではありませんが、手作りの掲示物を作り、どの教室もきれいに飾られ、先生方の工夫と熱意がうかがえます。

●お金がなくても、努力して学校を運営●

ファイコン小学校は2000年には、山の頂上の狭い馬の背のような土地に、1,2年生だけが学ぶ3教室の学校でした。当時から、心血を注いでこの学校の運営にあたる2人の先生がいました。斜面を切り崩して土地を広げ整地して、教室や寮を順々に作ってきました。

2002年になり、ようやく1～6年生まで全学年が通える学校になりました。学校の寮に入りきれない子どもたちは、近くの教会(カレン族にはキリスト教徒が多くいます)の協力で、教会の寮に入っていました。先生の家も、廃材を利用して先生自らが手作りした小屋です。

2008年、「アジアの子供たちに学校をつくる議員の会」(安倍晋三会長)のご支援で、ファイコン小学校のメイン校舎が作られ、教育環境の整備が進みました。AEFAの支援がきっかけで、先生・生徒たち念願の中学校が地元政府により建設されることが決まりました。

＊

AEFAの支援後わずか2年、2010年には先生が10人から16人、生徒数は325人から400人へ。……そして地域の基幹校となった今も、ファイコン小学校の熱血先生方の献身的な努力は、日夜続けられています。

(チーフコーディネーター 佐藤 佳子)



馬の背にある学校



朝4時から食事の支度



熱血先生たち



先生はいつも子どもたちと一緒に



開校式で祝辞／議員の会・安倍晋三会長

子どもたちが自主的に／不登校児もゼロへ

「ワンコイン・スクールプロジェクト」の趣旨に賛同され、2009年度より全校で活動に取り組んでいただいている東京都武蔵村山市立第十小学校。上級生が「親善大使」となり、活動を全校生に広めています。オリジナルの「がんばりカード」を作成し、学年ごとに達成額を決め、達成者には毎週月曜の朝礼で認定証を校長先生手ずから渡しています。

全校活動として推進中の同校を訪ねて、榎尚信校長先生にお話を伺いました。

親子の対話を促進

Q：子ども自身による活動が充実していますね。

「そうなんです。子どもたちが、主体的に活動するようになりました。昨年度は親善大使の活躍をもとに、冬休み中もがんばったようです。『あともう少しで達成！』などと、子ども同士大変刺激になっているようです。800名近い全校児童の前で、認定証を渡されるのも、とても誇らしいことです。おそらくラオスの開校式のときの子どももこういう顔をしているんじゃないかな。」

「校長室に来ては、いろいろと報告してくれます。布団敷きや皿洗いや弟や妹の世話…各家庭で話し合っているようです。5、6年生は、1回10円で50回ががんばって達成ですから……。毎日やるのは結構大変のようですが、逆にお母さんに『お手伝いなんて当たり前でしょ〜』と言われたりして（笑）。この活動によって親子の対話も増えているようです」

Q：各家庭に理解を求めるのも、ご苦労があったのではないのでしょうか。

「授業参観日に、ある保護者様が校長室を訪ねてこられてまして……。ワンコイン・スクールプロジェクトって、いいですね！もっと知りたい！とのことだったんです。うれしかったですねえ。」

子どもたちにとっても、自分ががまんしたり努力したりして得るお金ですから、50円・100円の重みやありがたみを、実感しているようです。家庭からも、親子で取り組んでいると、反応も大きいものがあります。

ワンコインPJは、人を育てる素晴らしい企画です。素敵な大人に育ててくれることを期待しています。」

Q：今年も、取り組みを継続し、活動を更に広げてくださっていますね。

「このような活動は、継続して行うことにこそ意義があります。本校では、先生が活動を広めるのではなく、子ども自身が全校に広めています。今年2月のポントン小学校の開校式の様子や、プロジェクト紹介も子ども自身が自主的に行っています。

学校が変わると、その地域も変わるといいます。こ



認定証

ワンコイン・スクールプロジェクト活動の確かな手応えを語る榎校長先生



のプロジェクトには、子どもたちを変えるパワーがあると思います。」

不登校児がゼロに

Q：先生にはプロジェクトへのエールをいつも頂いていますが。

「本校には789名の児童がいますが、不登校児はゼロです。これはすごいことなのです。ワンコインPJだけがその要因ではないですが、このような取り組みが不登校児ゼロにつながっていることは間違いありません。

学校に通えること、勉強できること、自分たちの学校が決して普通ではない、当たり前ではない…ということに気づき、今の普通を幸せだと感じられることはとても大切な経験です。

そして、自分のこと、日本のことばかりでなく、人を、世界のことを考えられるような大人になってもらいたい。たとえ今は「理解」できなくても、『感じる』ことが大事だと思っています」

「社会の動向が、今後どうなるだろうと不安を覚える方が多いように感じます。経済的なこと、ひいては若者世代の生活、さらに、今の子どもたちの将来はどうなっているのだろう、私も同様に不安を感じます。

しかし、人間が幸福に暮らすのは自分だけが経済的に豊かになったり、そんなことではないと、ラオスの子どもを間接的ではありますが、見せていただいて、実感しています。

「人」とは支え合っているような漢字であることは、誰もが知っています。真髄はここではないか、支え合っていることを感じ合えた時に人間は最も幸福を感じる

福島県矢祭町立東館小学校 ラオスへ届け、『君と僕は友達』

創作音楽劇、子どもたちが振付。



ラオスのナトゥール小学校との交流を深めている4年生（担任：小松光恵先生）30名。10月30日に行われた学習発表会で、みんなで創作した音楽劇『ラオス5000kmの旅』を発表しました。

この劇は、小松先生の脚本・演出。振付は子どもたちが考えました。手作りラー油を完売した子どもたちが、ラオスの友達にお金を届けに旅をする冒険



談です。まず、ラオスの特産物でラー油の原料となる緑色と赤色の『トウガラシ』に出会います。『ゾウ』からはラオスでは象が人間を助けてよく働いてくれることを教えてもらいます。「クラスター爆弾」からは、現在でも子どもが不発弾の被害にあっている悲劇を聞きます。早く不発弾を取り去って欲しいという願いと、学校さえあれば、その危険性を教えることができることを学びます。自分達に出来ることを考えながら、ラオスの国花チャンパに励まされ、ナトゥールに到着します。

ラオスの友達と出会い、「チャウレイコイ、ペンムーカン（君と僕は友達）」と、声を合わせて喜び合いました。ラオスの友達のために考えて取り組むまごころ、純粋さ、ひたむきさが伝わる音楽劇でした。



児童の出前授業感想文

のではないかとつくづく思います。」

先生方も積極的に

Q：先生方の反応はいかがですか。

「うちの学校の子どもたちに勉強してもらいたい、と思っていたんですよ。ところがなかなか集中が続かなかったりする。だから、そもそも学校があるってことが当たり前じゃないということに気付かせたかった。何のために勉強するか、それを分かるためにワンコインPJがあると。

だからね、先生方の授業の手助けをするために、先生を応援するためにワンコインPJに参加しました。

そうしたらね、『校長先生、今年はワンコインやらないんですか』って言われたんですよ、うちの職員から。待ってるんですよ。『あれいいと思う、ワンコインPJっ

て。』人間の根幹に関わる話は、みんなわかるんです。

いつも子どもにあわせて出前授業してもらっているけれど、先生達にお話いただくのもいいなあって思っています。大人に話す内容が、またあるでしょう。そうしたら、海外の日本人学校に行きたいとか、青年海外協力隊になるうか…っていう先生が出てくるかもしれないですよ。」

（2010年2月、同10月の2回のインタビューから構成）

＊

子どもたちだけでなく、大人にも夢を与える可能性を秘めるワンコイン・スクールプロジェクト。

AEFA学校建設第100校目として、ラオスのチャンヌア小学校の建設が進んでいます。

（コーディネーター 金子 恵美）

<柵校長先生からのお手紙>

～ワンコイン・スクールの実践に学ぶ

日本の子どもたちの善意と努力がたくさんの人の心を動かし、ラオスに笑顔が作られました。心からお喜び申し上げます。「ワンコイン・スクール通信」を読んでいると、日本の子供がラオスの子供に学ばなければいけないことがたくさんあります。

特に私が思うのは「真摯に学ぶ。」ということです。

本校の本年度目指す特色ある学校像は、小学生としての自覚を高め、学習力を伸ばし、未来への夢と希望が抱ける学校です。

この「小学生としての自覚」とは子供自身が勉強するんだ、運動するんだ、そして礼節を学んだという使命感を持つことと捉えています。学べることが当たり前ではないという発想から生まれた目標であり、これは私達がワンコイン・スクールの実践から学んだことです。

谷川理事長様を始め、皆様でなさっていることは、実は日本の将来を担う子供達を育てていただいていると私は強く思っています。自分の姿は人の姿を見て学ぶものです。AEFAのみなさんのような、思い・志を持って活動している大人がいる…ということ、後ろ姿を見せたいと思っています。大きくなったら、こういう活動に参加しようと思うかもしれません。

第5回AEFAフォーラムは、2010年10月30日、東京・海洋船舶ビルで開催された(出席者97名)。福島県東館小との画像中継、タイ訪問の報告発表など、交流の成果、今後への課題について活発に議論されました。

なお、パネルディスカッションには大和義行東京都教育庁主任指導主事に臨席いただきました。



●タイ／サムソップ小、ファイコン小を訪ねて●



◆小山田小・守屋先生
／二之江小・今井先生

「タイの子どもたちが挨拶をよくする、何事も自分でする、上級生が下級生の面倒をみることなど学ぶことは多い。」



◆広田小・遠田先生

「学びたい子どもがいる。教えた教師がいる。守りたい伝統がある。」また「教師が子どもから尊敬される存在である事に同じ教師として刺激を受けた。」



◆小山田小・富田校長先生

「子どもたちの学習する喜びが眼差しにうかがえる。」「これからできることを学校、地域、社会それぞれの場で着実にやっていくことが大切。」

●交流事例／ワンコイン・スクールプロジェクト●

平井希波先生が「ラオス親善大使代表」川口優菜さんに、「大変だったこと、楽しかったこと、考えたこと」をインタビュー。今年はいくつのリレーとして4年生に引き継がれています。



●プログラム●

- ◇理事長挨拶及び活動報告
- ◇画像中継／福島県東館小学校
- ◇タイ 学校視察報告発表
～タイ／ファイコン小学校を訪問して～
〈同小紹介／AEFA：佐藤佳子・金子恵美〉
・町田市立小山田小学校 守屋 友紀先生
・江戸川区立二之江小学校 今井 彩先生
・相模原市立広田小学校 遠田 清志先生
・町田市立小山田小学校 富田 逸夫校長先生
- ◇交流事例発表
～ワンコイン・スクールプロジェクト～
・武蔵村山第八小学校 小野江 隆校長先生
平井 希波先生
川口 優菜さん(OG)
- ◇パネルディスカッション
～交流をいかに活かし、伝え、根付かせるか～
・東京都教育庁 大和義行主任指導主事
・武蔵村山第八小学校 小野江隆校長先生
・前二俣川小学校 小林 宏先生
・武蔵村山第十小学校 榎尚信校長先生
・東館小学校 穴戸 仙助校長先生
・仙台市教育センター 菊地修治先生
・笹川スポーツ財団 玉澤正徳氏
(司会)東京財団 亀井善太郎政策プロデューサー
- ◇AEFA 交流賞の発表／表彰
- ◇AEFA 立ち上げ期を支えて下さった方々の紹介
・西岡前校長先生(小山田小学校)・草桶教授(福井工業大学)
・松山信裕様(勝山市議員)・玉澤正徳様(笹川スポーツ財団)
- ◇記念すべき100校&101校発表
- ◇「AEFA SONG」演奏
- ◇閉会・懇親会

●パネルディスカッション●

7氏のパネラーが交流契機、成果、課題をのりこえる方法などについて発言。会場からも質問があり活発な意見交換がなされた。(写真上掲：左から榎校長先生、王澤氏、小林先生、小野江校長先生、大和東京都主任指導主事、亀井氏＝司会、一人おいて菊地先生)穴戸校長先生・スカイプ参加。



東館小と画像中継

「食べるラー油」を手作り、販売金をラオスに贈る4年生の元気な声が会場に届きました。

交流大賞／津市南が丘小

大賞は全校寄せ書きこのほり。今は、ラオス・ナトゥム小の上空で泳いでいます。



GYPSY QUEEN、AEFAソングを演奏



リーダーのAKIさん

“同じアジアに生きるもの同士、音楽を通してつながりたい…” AEFAソングを作詞作曲、ラオスやベトナムの子どもたちとの音楽交流、日本の学校へも訪問して出張演奏会を行っています。フォーラムをきっかけに「ワンコイン・スクールプロジェクトの歌」も完成間近。

◆谷川理事長、文科省研修会で講演

8月22日、海外の日本人学校等に派遣される先生方対象の「在外教育施設派遣教員登録者研修会」に招かれ講演、一昨年、昨年に続き3年連続となりました。

商社員とNPO活動からの提言・アドバイスを、1時間にわたり、164人の先生方に熱く語りました。

◆全海研で活動紹介

8月4日、「全国海外子女教育国際理解研究協議会」全国代表者会で、谷川理事長がAEFA活動を紹介。

学校が無い世界、高い学ぶ意欲、譲り合い、二重取りをしない子どもたち…アジア奥地の子どもたちのエピソードに先生方も大変興味深く聞かれていました。

◆東京都教育庁から本年も交流推薦校

07年以来、毎年いただいている交流推薦校、本年度は文京区立青柳小学校、江戸川区立二之江小学校、豊島区立池袋第二小学校の3校を推薦いただきました。

◆ちく縫いボラさん、大活躍

高橋正子さん、高井愛さんはじめ多くの方がラオスの手織り布を小物に…。10月30日のフォーラム会場では好評販売。売上げはラオスの奨学金に充てられます。

◆倉敷市交流15校、進水式見学

日本財団様のご厚意により、進水式見学を実施。5万トン級の進水には児童から歓声があがりました。

◆AEFA ホームページを改訂

(株)上武様のご尽力により、ホームページを抜本的に改訂。これまでより内容がさらに充実し、ぐんと見やすくなりました。ありがとうございました。

手作り「ラー油」、大好評…東館小

東館小学校4年生が全員で「食べるラー油作り」にチャレンジ、見事に出来上がった『製品』は@500円でチャリティ販売され、200個が40分で完売となりました。売上金はラオスの交流校に贈られます。

子どもたちの手作りを指導された小平一夫さんは、昨年の「カボチャギョウザ」に続いてのご支援です。

この模様は、NHK、福島中央テレビ、テレビユー福島、福島民友、福島民報で紹介されました。

子どもたちを励ます『まごころ』の人…小平さん

福島県郡山市駅前の老舗中国料理「珍満」社長の小平一夫(おだいら いちお)さんが初めて来校されたのは、昨年五月末のことでした。4年生の子どもたちが育てたラオスのカボチャの食べ方の思案に暮れて相談すると、料理長とともに来校。茹でて裏ごして餃子の皮に練り込むカボチャギョウザを、30人の子どもたちに指導いただきました。そして今年は、「食べるラー油作り」。子どもたちが育てた

近江兄弟社様、90周年記念に建設の支援

10月24日、(株)近江兄弟社様の創始者ウィリアム・ヴォーリズ生誕130周年、会社創業90周年式典が開催され、その晴れがましい席上で、ラオスの学校建設資金を贈呈いただきました。

なお、同社及びニコニコ委員会様からは2008年より継続して支援いただき、昨年度はパチュドン小中学校の女子寮と女子教員の家をご支援いただいています。



90周年式典

女子寮

サンキューホールディングス様、建設校開校

(株)サンキューホールディングス様の「サンキュー夢スクール基金」のご支援によりホアバック小学校ジアンビ分校が完成し、堀口社長様はじめ同社関係者のご列席のもと、9月27日、開校式が行われました。

なお、開校式の模様は地元テレビで放映されました。



ジアンビ分校開校式／堀口社長様(右から7人目)



にこやかに「ラー油作り」を指導された小平さん。販売コーナーには長蛇の列。地元新聞に掲載。



ウガラシと、ラオスの友だちのために手紙に託した「優しさ・願い・想い」に最大限に答えてくださいました。

「人って、ご縁とご縁とのつながりなんですよ。どんどんご縁をつないでいけば、みんな親戚・みんな家族になるでしょう?」と小平さん。どんなことにも、このお気持ちで誠心誠意尽くされる姿は、遠い空の下の友だちに思いを馳せ、懸命に活動に取り組む子どもたちの純粋な心を支え励ます『まごころ』そのものでした。

(矢祭町立東館小学校校長 穴戸 仙助)

◆谷川理事長、文科省研修会で講演

8月22日、海外の日本人学校等に派遣される先生方対象の「在外教育施設派遣教員登録者研修会」に招かれ講演、一昨年、昨年に続き3年連続となりました。

商社員とNPO活動からの提言・アドバイスを、1時間にわたり、164人の先生方に熱く語りました。

◆全海研で活動紹介

8月4日、「全国海外子女教育国際理解研究協議会」全国代表者会で、谷川理事長がAEFA活動を紹介。

学校が無い世界、高い学ぶ意欲、譲り合い、二重取りをしない子どもたち…アジア奥地の子どもたちのエピソードに先生方も大変興味深く聞かれていました。

◆東京都教育庁から本年も交流推薦校

07年以来、毎年いただいている交流推薦校、本年度は文京区立青柳小学校、江戸川区立二之江小学校、豊島区立池袋第二小学校の3校を推薦いただきました。

◆ちく縫いボラさん、大活躍

高橋正子さん、高井愛さんはじめ多くの方がラオスの手織り布を小物に…。10月30日のフォーラム会場で好評販売。売上はラオスの奨学金に充てられます。

◆倉敷市交流15校、進水式見学

日本財団様のご厚意により、進水式見学を実施。5万トン級の進水には児童から歓声があがりました。

◆AEFA ホームページを改訂

(株)上武様のご尽力により、ホームページを抜本的に改訂。これまでより内容がさらに充実し、ぐんと見やすくなりました。ありがとうございました。

近江兄弟社様、90周年記念に建設の支援

10月24日、(株)近江兄弟社様の創始者ウィリアム・ヴォーリズ生誕130周年、会社創業90周年式典が開催され、その晴れがましい席上で、ラオスの学校建設資金を贈呈いただきました。

なお、同社及びニコニコ委員会様からは2008年より継続して支援いただき、昨年度はバチュドン小中学校の女子寮と女子教員の家をご支援いただいています。



90周年式典



女子寮

サンキューホールディングス様、建設校開校

(株)サンキューホールディングス様の「サンキュー夢スクール基金」のご支援によりホアバック小学校ジアンピ分校が完成し、堀口社長様はじめ同社関係者のご列席のもと、9月27日、開校式が行われました。

なお、開校式の模様は地元テレビで放映されました。



ジアンピ分校開校式／堀口社長様 右から7人目

手作り「ラー油」、大好評…東館小

東館小学校4年生が全員で「食べるラー油作り」にチャレンジ、見事に出来上がった『製品』は@500円でチャリティ販売され、200個が40分で完売となりました。売上金はラオスの交流校に贈られます。

子どもたちの手作りを指導された小平一夫さんは、昨年の「カボチャギョウザ」に続いてのご支援です。

この模様は、NHK、福島中央テレビ、テレビユー福島、福島民友、福島民報で紹介されました。

子どもたちを励ます『まごころ』の人…小平さん

福島県郡山市駅前の老舗中国料理「珍満」社長の小平一夫（おだいらいちお）さんが初めて来校されたのは、昨年五月末のことでした。4年生の子どもたちが育てたラオスのカボチャの食べ方の思案に暮れて相談すると、料理長とともに来校。茹でて裏ごして餃子の皮に練り込むカボチャギョウザを、30人の子どもたちに指導いただきました。そして今年は、「食べるラー油作り」。子どもたちが育てた



にこやかに「ラー油作り」を指導された小平さん。販売コーナーには長蛇の列。地元新聞に掲載。



ウガラシと、ラオスの友だちのために手紙に託した「優しさ・願い・想い」に最大限に答えてくださいました。

「人って、ご縁とご縁とのつながり役なんですよ。どんどんご縁をつないでいけば、みんな親戚・みんな家族になるでしょう?」と小平さん。どんなことにも、このお気持ちで誠心誠意尽くされる姿は、遠い空の下の友だちに思いを馳せ、懸命に活動に取り組む子どもたちの純粋な心を支え励ます『まごころ』そのものでした。

(矢祭町立東館小学校長 宍戸 仙助)

“さまざまなご支援、ありがとうございます”

AEFAの活動に対するご支援はさまざまな形で広がっています。設立6年で学校建設、インフラ、ソフト、交流など70数件のご支援をいただきました。最近のご支援を紹介させていただきます。

●ご支援一覧 (2010.1～10)

支援者		支援先・内容	
Ⅰ. 学校建設支援	石原 拓一郎様	ラオス イルン村地域学習センター	
	独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険管理機構様	ベトナム アップラン小学校	3教室・校庭整備・WC・既存7教室の改修（一部支援）
	独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険管理機構様	ラオス バチュドン中学校	3教室・WC（一部支援）
	株式会社やすらぎの部屋様	ラオス ピアラー小学校	3教室・教員室・WC
	大久保 孝一様		
	株式会社サンキューホールディングス様	ベトナム ホアバック小学校ジアンピ分校	4教室・教員室・WC・井戸
	株式会社サンキューホールディングス様	ラオス ノンヤオ中学校	4教室・教員室・WC・井戸
	ろくさん基金 みなさま	ラオス コツマイ小学校	5教室・教員室・WC・井戸
	福島県相馬郡飯館村 みなさま	ラオス ドンニャイ中学校	4教室・井戸
	上村基金 みなさま	ラオス トゥムリ・フン小学校	5教室・教員室・WC・井戸
	イートアンド株式会社様（日本財団 夢の貯金箱）	タイ アーハ小学校	3教室・WC・水タンク
Ⅱ. インフラ支援	株式会社近江兄弟社様	ラオス カニョンケク小学校	3教室・教員室・WC
	株式会社近江兄弟社ニコニコ募金様		
	株式会社ブロードウェイ様	ベトナム グエンユー小学校	井戸
	グレンチェック株式会社様	ラオス ポンタン小学校	井戸
Ⅲ. ソフト支援	安倍 晋三様 他1名様	タイ ファイコン小学校	寮生用 毛布・マット
	中川 千恵子様	ラオス ナトゥム小学校	鐘
	石塚 貞紀様 富美代様	ラオス バチュドン中学校	先生の給与
	銀河ネットワークグループ	ベトナム タンホアA小学校	奨学金
	橋幼稚園のおかあさんたち みなさま	ラオス バチュドン中学校	先生の給与
	株式会社ブロードウェイ様	ラオス ノントゥム小学校	先生の給与・教材
	小林 宏様	ラオス イルン小学校	先生の給与
	キュービー株式会社様	ラオス ティーチャーズファンド	先生の給与・研修・図書など
	株式会上武様	AEFA HP作成	
	ちくちくぬいぬいボランティアさんによる作品売上		
	津金 睦子様	ラオス 師範学校生徒の奨学金	一村一教師、ラオス山岳僻村の生徒が村の先生となるべく、師範学校で学ぶための奨学金として
	サロンドヒロコ様		
	福島南ロータリークラブ様		
Ⅳ. 交流等	AEFA会員各位からの寄付金	フレンドシップ交流資金に充当	
	株式会社亀吉実業様		
	木村 敬道様		
	山崎 登喜様		
	大石 孝裕様		
	青木 文子様 みなさま		
	中国料理 珍満様 小平一夫様		
	財団法人三菱UFJ国際財団様	第5回AEFAフォーラム 先生方によるタイ現地視察及び交流授業	
日本財団様	第5回AEFAフォーラム 会場・設備提供他		

2010年度は日本財団よりベトナムで15校（66教室＝教員室含む、トイレ14、井戸14）のご支援を頂きました。

ご寄付を頂いた学校一覧

宮城県仙台市立愛子小学校	東京都品川区立杜松小学校	東京都武蔵村山市立第十小学校	福井県坂井市立丸岡南中学校
宮城県仙台市立広瀬小学校	東京都町田市立小山田小学校	神奈川県横浜市立二俣川小学校	福井県坂井市立高松小学校
福島県矢祭町立東館小学校	東京都町田市立南大谷小学校	神奈川県相模原市立藤野南小学校	岡山県倉敷市立玉島南小学校
東京都足立区立千寿第八小学校	東京都武蔵村山市立第八小学校	福井県坂井市立丸岡中学校	島根県浜田市立宇野小学校

ボランティアのみなさん

いつもありがとうございます!!

青木 文子	さつき里香	中森 朋子
石塚都美子	佐藤 裕	長原 歩
鬼形 まり	GYPSY QUEEN	成島志帆子
加藤 祐子	杉崎くに子	福田 澄繪
門真なみはや高校	鈴木 博康	増田 郁子・妹様
工藤 卓二	染谷 和美	三上 正芳・由紀
熊木 満喜	高井 愛	村山 希
小垣外明子	高橋 正子	横瀬 定且
五嶋 礼子	中村亜友美	若井 淳子

友の会新会員のご紹介

新入会されたみなさんです。ありがとうございました。（敬称略）

〈個人会員〉32名	三枝 格一	田中 健一	村岡 弘子
岩谷真紀子	佐々木正延	津金 睦子	森 秀文
大林由利子	佐藤 安雄	寺尾 勝汎	柳田 光司
岡崎 和美	篠田 了	寺田 美紀	山形 恭子
岡 久美子	渋谷 嘉孝	戸田 裕治	山川やえ子
金森捷三郎	嶋矢 志郎	馬場 隆司	横田 俊之
川口 朋子	正田 秀明	増永 勝	脇田 祐吉
木村富士雄	菅原 健司	三島 宇子	渡辺 隆
小林 孝人			

友の会にご参加を

アジア教育友好協会では、アジアの子ども達に対する教育支援や、日本の子ども達との国際交流を支援して下さる会員の方を募集しています。

会費
・個人 5,000円(年間)
・法人 30,000円(年間)

【お問い合わせはこちらへ】
TEL:03-6426-0720

認定NPO法人 **アジア教育友好協会 AEFA(アエファ)**
Asian Education and Friendship Association

本 部:〒105-0014 東京都港区芝3-3-10 芝園オーシャンビル8F

TEL 03(6426)0720/FAX 03(6426)0721

Email: tokyo@nippon-aeffa.org URL: <http://www.nippon-aeffa.org> ブログ: <http://blog.canpan.info/aeffa/>

